

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 赤ちゃんの誕生

本市では、毎年約 500 人の赤ちゃんが誕生します。本当に「天からの授かりもの」と言っ
て良いほど、きまって毎年約 500 人の赤ちゃんが市民の仲間入りをします。ちなみに市民病院の産科の様子を調べてみました。年度別出生数は、平成 19 年度以降の 5 年間をみると、238 人、219 人、212 人、209 人、209 人となっていて、全体の出生数の 2 分の 1 を下回り、かつ、少しずつ減っているのが気になります。病院局によると、どうしても新しくてきれいな個室を希望する女性が多く、市民病院の現状では足が遠のく妊産婦が多いそうです。市民病院の産婦人科の陣営は、医師 3 名（うち女医 2 名）、助産師 13 名、その他看護師多数ですが、現在、産科に個室が 5 室しかありません。新病院ができると、12 の個室ができ、スペースも広く、産科の入院期間は分娩日を含め平均 6 日程度だそうですが、病院局では「新生児と共に過ごす母親にも、居心地に満足していただけると思います。」と PR しています。「天からの授かりもの」がもっと増えるといいですね。

■ 敬老の日

9 月 17 日は「敬老の日」でした。本市では、平成 24 年度中に 100 歳になる方が 27 人。100 歳以上は全部で 70 人に達します。先日、新たに 100 歳になる方のうち、お元気な方々を訪ね、お祝いしてきました。私自身、日ごろ

何かにつけ「高齢化社会」を口にしてはいますが、驚くほど元気な方が多く、改めて「高齢化社会」は現実のものであることを痛感しました。

それに「敬老の日」にちなみ、市民のみなさんにお伝えしたいことがあります。本市の最高齢者は 109 歳の川本ヤスノさん（小野田地区）ですが、最近、山口県一の最高齢者となりました。川本さんには、市民のみなさんと共に、心からその長寿にお祝いの言葉を申し上げたいと思います。

■ かがく博覧会

9 月 22 日・23 日の両日、おのだサンパークを会場に、本市と山口東京理科大学共催の「第 3 回かがく博覧会」が開催され、たくさんの市民の方が訪れてくれました。市内の小中学校のほかに、全高校 4 校と理科大学、それに今回初めて市内の企業 6 社にも参加していただき、盛大な博覧会となりました。江澤教育長は、かねて小中学校の教育目標として、「生きる力を身につけること」と「感動体験」を強調していますが、今年の「かがく博覧会」は、どの展示・作品・解説も、この「感動体験」を感じさせるものが多く、子どもにとっても大人にとっても、大変有益で心躍るものでした。

対話の日

10 月 25 日(木) 19:00 ~
保健センター